

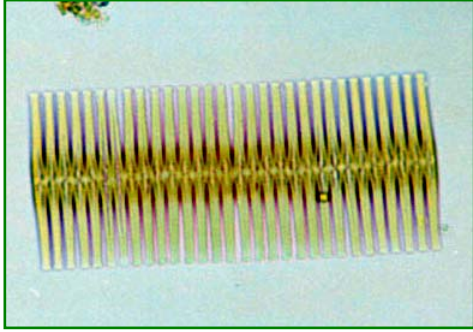
瀬田川プランクトン調査結果速報

～第9報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当
平成24年5月28日

1. 最も数が多かった種類(優占種)

植物プランクトン第1優占種



Fragilaria crotonensis
(オビケイソウ)
珪藻綱

多数の細胞が中央殻面で互いに接しあつて、帯状の群体を形成して浮遊する。

動物プランクトン第1優占種



Synchaeta oblonga
(ナガマルドロワムシ)
輪虫類

体は透明な鐘形で、足は短く、先端の趾(あしゆび)は微小である。頭冠は幅広く、前面には4本の長い剛毛があり、両端には長い繊毛をもつ耳状の突起がある。

コメント

植物プランクトンでは、珪藻に属するオビケイソウ(*Fragilaria crotonensis*)が優占種となったが、体積で見ると、引き続き緑藻に属するスタウラスツルム(*Staurastrum dorsidentiferum* var. *ornatum*)が優占種となった。網別の体積では、緑藻類が総体積の約67%、渦鞭毛藻類が約14%を占めた。動物プランクトンでは、ナガマルドロワムシ(*Synchaeta oblonga*)が700個体/Lで優占種となった。ピコ植物プランクトンは、輝橙色のものが72,000細胞/ml、深赤色のものが15,000細胞/ml計数され、合計87,000細胞/mlであった。

2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/l)
輪虫類	<i>Synchaeta oblonga</i>	700

第 2 優 占 種		個体数 (個体/l)
輪虫類	<i>Kellicottia longispina</i>	360

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
生物圏担当

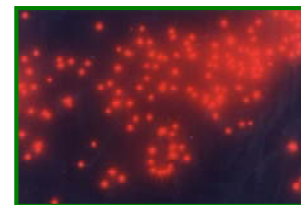
(2) 植物プランクトン

平成24年5月28日

第9報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)		
		数	体積
(黄鞭) <i>Dinobryon divergens</i>	200		
(黄鞭) <i>Mallomonas</i> sp.	1		
(珪) <i>Aulacoseira granulata</i>	12		
(珪) <i>Cyclotella</i> sp.	30		
(珪) <i>Acanthoceras zachariasii</i>	50		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	310	◎	
(珪) <i>Fragilaria capucina</i>	20		
(珪) <i>Synedra acus</i>	1		
(珪) <i>Cocconeis placentula</i>	10		
(珪) <i>Nitzschia acicularis</i>	10		
(渦) <i>Ceratium hirundinella</i>	25		○
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	160		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	300	○	
(緑) <i>Eudorina elegans</i>	260		
(緑) <i>Tetraspora lacustris</i>	40		
(緑) <i>Dictyosphaerium pulchellum</i>	190		
(緑) <i>Oocystis</i> sp.	160		
(緑) <i>Mougeotia</i> sp.	96		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	40		
(緑) <i>Closterium gracile</i>	7		
(緑) <i>Closterium acutum</i> var. <i>variabile</i>	3		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i>	84		◎
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	201	10.0	7.3
(珪) 珪藻綱	443	22.1	5.6
(渦) 渦鞭毛藻綱	25	1.2	13.7
(褐) 褐色鞭毛藻綱	460	22.9	5.9
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	880	43.8	67.4
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細 胞 数	2009	総体積 (μm^3)	5.46E+06
種 類 数	22		

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)
ただし*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン
1,000倍G励起で撮影

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	5月28日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	83,000

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが $0.2\sim 2\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。